第 30 週—全焼のささげ物の祭壇—

鳥瞰	二つの祭壇は、すなわち全焼のささげ物の祭壇と金の香壇は、神のエコノミーを遂行するためです。全焼のささげ物の祭壇は、神の法理的な贖いと関係があります。金の香壇は、神の有機的な救いと関係があります。二つの祭壇は、油塗りによって、罪のためのささげ物の血によって、ささげ物を焼いた火によって結び付けられています。全焼のささげ物の祭壇は、キリストの十字架を予表します。十字架は、すべての霊的な経験の基礎、立場です。格子状の網は、祭壇の最も重要な部分です。なぜなら、それはキリストの贖いの奥義を描写しているからです。格子状の網の四隅にある青銅の四つの環は、永遠の霊を予表しています。祭壇の両側にある竿は、証しとしての信者の組み合わせによる十字架の行動を表徴します。わたしたちは全焼のささげ物の祭壇によって新約全体の絵を、すなわち、贖うキリスト、その霊、召会を持ちます。	
	真理要点	経験適用
1日	1．神はエコノミーにおいて、唯一の宇宙的な合併を願っていることを説明してください。 2．ローマ人への手紙第十二章はどのように神の有機的な救いを見せていますか？	1．神聖な三一の三者が合併であるのは、互いに相互内在することによってであり、一として共に働くことによってです。どうか主がわたしたちの目を開いて、ご自身が合併である三一の神が、キリストのすべての信者を彼の唯一の、宇宙的な合併の中へと合併されたことを、見せてくださいますように。 2．有機的な救いは第 5 章 10 節で述べられており、それは「……さらにいっそう彼の命の中で救われる……」と言っています。一方で、わたしたちは救われました。もう一方で、わたしたちはなおも救われつつありますが、まだ、聖別され、造り変えられ、神の御子のかたちに同形化されるまでには、救われていません。主観的な救いは、わたしたちの古い人、自己、天然の命から、わたしたちを性情において救います。
2日	1．なぜ油塗りによって二つの祭壇は結び付けられるのでしょうか？ 2．二つの祭壇はどのようにして罪のためのささげ物の血によって結び付けられえますか？	1．出エジプト記第 30 章 27 節と 28 節は、香の祭壇と全焼のささげ物の祭壇がいずれも聖なる塗り油で油塗られたと言っています。幕屋とその器具が油塗られた後、二つの祭壇が油塗られました。油塗りは神の行動を表徴します。ですから、神の行動によれば、香壇と全焼のささげ物の祭壇は結び付けられているのです。油塗りが結び付ける要素です。 2．この血は罪を覆う日に罪を覆うためにささげられたものです。……その日に、最も重要な罪のためのささげ物がささげられました。このささげ物の血は流された後、祭壇から聖所へともたらされ、香壇の四隅に塗られました。その血の一部はまた至聖所へともたらされ、その残りの血は外庭の祭壇の周りに注ぎ出されました。
3日	1．神のエコノミーの中で、神がわたしたちに、ひとりのパースンと一つの道を与えられたことを説明してください。 2．出エジプト記第二十七章二節で、青銅で祭壇を包まなければならないと書かれていますが、その霊的な意義を説明してください。	1．ひとりのパースンとは首位であり、すべてを含むキリストであり、一つの道とは十字架です。すべてを含む方として、キリストはわたしたちにとってすべてです。ひとりのパースン、キリストは宇宙の中心です。一つの道、十字架は神の行政の中心です。神は十字架によってあらゆるものを統治し、十字架によってあらゆるものを対処します。 2．これはわたしたちの身代わりとしてのキリストに対する神の義なる裁きを表徴します（民 16:37-38）。民数記第 16 章でわたしたちは、祭壇を覆うために用いられた青銅が、神によって火で裁かれた二百五十人の反逆者たちの香炉から来たことを見ます。神は彼らを裁かれた後、その青銅の香炉を取り、祭壇を包むためにそれらを用いるようモーセに命じました。
4日	1．祭壇の内側が銅の網と四つの環であることの意義を説明してください。 2．銅の網が神の審判がキリストのあらゆる部分までに及んだことを説明してください。	1．格子状の網がなければ環はありませんし、また環がなければ祭壇は移動することができませんでした。これはわたしたちを一つの非常に重要な事柄にもたらします。すなわち、格子状の網がなければ、火を用いて犠牲を燃やすことができません。ですから、犠牲を焼くためにも、祭壇の移動のためにも、四つの環の付いた格子状の網が必要不可欠なのです。もし格子状の網が取り外されるなら、祭壇は空の箱となります。 2．わたしたちの身代わりとしてのキリストに対する神の裁きは、単に外側のことだけではありませんでした。神の裁きの聖なる火は、キリストの外側にあっただけでなく、また彼の内側で燃えていました。これは詩篇第 22 篇において示されており、キリストが神の裁きを担われたとき、その裁きは彼の心に、彼の内側の各部分に達したことを示しています。
5日	1．網の四隅にある四つの青銅の環はなにを表徴していますか？ 2．どのようにして永遠の霊においてキリストの贖いの力は効力を得ますか？	1．予表では、これらの環はヘブル人への手紙第 9 章 14 節で語られている永遠の霊のことを指しています。……キリストの血には効力があります。なぜなら、彼は永遠の霊を通してご自身を神にささげられたからです。永遠の霊はキリストの十字架の力、強さです。永遠の霊を離れたら、キリストの贖いは効力があり得ませんでした。 2．格子状の網の全重量はその環によって担われました。これは格子状の網によって達成された贖いの力、強さ、効力が四つの環にかかっていることを意味します。キリストの贖いの力は永遠の霊にかかっています。環が格子状の網と共に一つのものに形成されていることが示しているのは、贖うキリストがその霊という結果になるということです。
6日	1．二つの竿が人によって運ばれるためであるのは、どのような霊的な意義がありますか？ 2．なぜ祭壇の内容が定義されるために新約全体が必要なのでしょうか？	1．竿は祭壇の移動のためでした。これらの竿は環に通されました。これは十字架の行動がその霊の力によることを表徴しています。さらに、祭壇の両側にある竿は人によって運ばれました。これは証しとしての信者の組み合わせによる十字架の行動を表徴します。祭壇は人の肩の上に担がれました。今日、十字架は人によって宣べ伝えられなければなりません。 2．四福音書において、わたしたちはキリストが格子状の網であり、また形成される過程にある環であることを見ます。使徒行伝において、四つの環が現れます。それからローマ人への手紙から啓示録までのすべての書簡は環についてさらに多くを啓示しており、七倍の霊で結んでいます。これが新約の啓示です。これによりわたしたちは、祭壇の内容が定義されるために新約全体を必要とすることを見ます。
まとめ	全焼のささげ物の祭壇の格子状の網とその環と竿は、祭壇の内容であり、キリストの贖いの内在的な内容を表徴しています。青銅の網は神の裁きがキリスとの内側に各部分に達していたことを示し、キリストが内側で受けた苦しみが外側よりも多かったことを示しています。キリストは神のエコノミーのために一時的に放棄され、彼の心はろうのように溶けました。贖いが完成されて、その霊がもたらされたことは、四つの環によって表徴され、また贖いの永遠の効力についても語っています。二つの竿は神の行動が召会—キリストのからだ—が証しのために組み合わされる必要があることを啓示しています。新約のローマ人への手紙、コリント人への第一の手紙、ガラテヤ人への手紙はわたしたちに完全な絵を見せています。	